

市政を問う

28人が一般質問

小城市議会定例会は、
九月十五日から、五十七
項目にわたって一般質問
が行われました。



一般質問は、質問順に記載する予定でしたが、写真があるところと、無いところがあり、紙面づくりの都合上、順序をかえております。

志波 則治 議員



三日月町

洪水の排水対策

問 継続事業の右岸幹線、福所江川の改修と一号排水路の取組み

は、小城市でも地区に

よっては内水排除が難しく、洪水による冠水常襲地帯も多く見られます。県、国営事業右岸幹線水路、福所江川、農地防災事業の一号排水路の早期完了を。

答 (市長)

国営防災事業は地区全般の排水改良を行い、災害防止と農業生産安定を合わせ、国土保全を目的とした事業で平成二十一年度終了予定で

問

雨水等の短期的流入による排水対策

と分水方法の考えは。宅地化等の増加で雨水等が一時的に流入し洪水、冠水を見ている。環境保全と災害防止から根本的

答

(市長)

現在計画実施されている農地防災事業と、関連の地盤沈下対策事業を早期完成させる考えです。短期流入の排水、分水は各地域の用排水ゲート操作が重要であり、施設管理者に大雨時の早期対応と適切管理を周知して、洪水発生の抑制をしていきたい。

問

風水害時の避難場所等の取組みは、

これは各地区公民館、公施設等が避難場所として指定されているが、住民の方も分かっていないと思われれます。まずは分かりやすい洪水マップ等も必要ではないか。

答

(市長)

十四号台風でも二百九十六人の方が自主避難をされています。災害時にはまず分かりやすい

避難場所等を住民の方々に周知徹底させる事が重要です。分かりやすい防災マップを作り各戸に配布します。

上瀧 政登 議員



牛津町

牛津中学校の給食

問

牛津中学校給食検討委員会が設置され話し合いがなされています。いつから実施出来ますか。

答

(今村教育長)

今後給食の運営方法、品質や安全性、食材の安定供給、安全管理等の諸問題を解決しなければなりません。保護者への説明、業者との打ち合わせなどをすませて平成十八年四月をめどに鋭意努力をしていきます。



▲給食が待たれる牛津中学校

急げ 集落営農

問

平成十九年度より水田農業の大変革が始まります。小城市の水田農業を維持発展させるためには、経理の一元化による集落営農を組織するのか、大規模農家を育成するのか、二者択一を迫られてきます。今後の小城市の水田農業の見通しは。

答

(市長)

国では急速に農業改革を推し進めています。市内の農地農業を守るには大型の農家だけでは限界があります。集落営農づくりも推進しなくてはなりません。今後、行政と農協、普及センター等が協力して新しい農業政策に対し、十分対応し、水田農業経営の安定と発展を図るために努力したいと思っております。

岸川 英樹 議員



芦刈町

小城市南部の振興策は

問

小城市南部は農業と漁業が盛んなところであります。①住民の生活基盤の整備、老朽

答

(市長)

今年度から小城市総合計画の策定に着手し、南部の芦刈町は「ムツゴロウ王国交流ゾーン」とし、具体的振興計画は、芦刈町三王崎地区都市再生整備計画を実施する。②道路網の整備とまちづくりとを連携していく。生活道路の整備は、小城市全体も踏まえ年次的に計画、実行する。③人口問題で芦刈地区は農業が基盤で、また漁業も盛んな地域です。虫食い状態な開発にならないように守っていく。

問

まちづくり都市再生整備計画は、南部の開発のため必要だが、目標の指数を達成することが一番大事ではないか。また人口問題で、農業振興地域と住宅地域とのすみ分けは、具体的にどのような計画か。

答

(市長)

まちづくり住民会議の中で議論し、この事業達成のために頑張る。芦刈地区の整備は、小城市全体のあり方、都市計画が今後一年間の中で一番大事なことで、小城市総合基本計画の中に示していきたい。



▲完成が待たれる江北-芦刈線

深川 高志 議員



牛津町

牛津江川水系の水門調整は

問 ハイウォーターレベルということ

で、危険水位に達し河川堤防の破堤を防ぎ、水害

被害の拡大を防ぐため、内排水ポンプの運転について、適切な調整ということだが洪水時のポンプ停止などの調整となれば、牛津川沿岸の小城・牛津・芦刈などの被害の状況をどのように想定されるか。また牛津江排水機場と円長寺井樋堰水門・勝井樋堰水門の調整と対応はどうなっているのか。

答 (市長) 牛津江排水機場の

ポンプ停止による被害地域の状況は、六角川水系洪水ハザードマップで大方想定できている。現時点において有効な対応策がない現状だが、危険な状況を国に対して説明していく。災害時における、住民の避難は、指示を間違えないように、トップとして大きな責任を持っている。

ポンプ停止による被害地域の状況は、六角川水系洪水ハザードマップで大方想定できている。現時点において有効な対応策がない現状だが、危険な状況を国に対して説明していく。災害時における、住民の避難は、指示を間違えないように、トップとして大きな責任を持っている。



▲牛津江排水機場

答

(永瀬総務部長)

牛津江水系の水門調整は、警報発令時は牛津庁舎の方で行っている。夜間・日曜日などは、旧町職員がまだまだ詳しいので、ふるさと配備ということで、旧町

の職員で班体制をとって行っている。

答

(北島産業建設部長)

国営農地防災事業の整備は、牛津地区については、今年度江津ヶ里地区を計画となっており、残りは来年度で終わり、友田の方に排水される計画となっている。

市丸 典夫 議員



小城町

公共事業で市内業者の育成を

問 市発注の公共事業において、地元業者育成、また、地域経済活性化の観点からも市内業者を優先

的に活用すべきでは。市の課題です。公共工事等の発注において、市内業者を優先的に取り扱うことは重要な政策のひとつです。一定規模以上の工事で、地元業者が受注できないような大規模な工事の場合でも、下請に地元業者を使う条件を付す等の地域要件を盛り込んで、地元業者の受注の増大を図ります。

答

(市長)

市内業者の育成は市の課題です。公共工事等の発注において、市内業者を優先的に取り扱うことは重要な政策のひとつです。一定規模以上の工事で、地元業者が受注できないような大規模な工事の場合でも、下請に地元業者を使う条件を付す等の地域要件を盛り込んで、地元業者の受注の増大を図ります。



▲改築される小城中学校

金銭的行政サービスの低下

問 市内四町にそれぞれ老人講座が開催されています。小城町の場合、年会費無料であったものが合併と同時に五百円の負担、三日月町

の場合、講師謝金として一万五千元(年十回開催)が、八千円に減額、その他いろいろな補助金が削られている。市として補助すべきところはしっかりと補助すべきではないか。

答

(市長)

受益者負担の原則、また今後の健全な財政運営の観点からも、利用者の方々の負担は、やむを得ない

問

三日月町の晩成大

学は視察研修のバス借上げ料が全額カットされている。住民の方々は「年寄りの楽しみをとるな」との声もある。

答

(松本教育次長)

経費節減の意味から市のバスを利用していただきたい。

大平 竜弘 議員



三日月町

公約の実施について

合併の恩恵を期待していた市民から、不便になった等の不満が聞かれるが、市長は

公約の中で何を重要視するか。

基本的には、福祉・産業等の六分野四十九プランをこの四年間着実に推進します。特に行政改革を重要視しています。

市の巡回バスの有機的な活用を

「空のバスが走っている」「アイル

に行きたい」等と聞かれますが、市民が日常的に利用する公共施設を有機的に利用できる対応は。

バスの利用は昨年と比較し、各町とも増加しています。平成十八年度より、小城市全域を網羅できる巡回バスの計画を進めています。

平成十八年六月一日から、既存住宅は、市町村の条例で決めることになった。市民への広報や高齢者家庭への公的普及をどうすすめるのか質問します。

松尾 義幸 議員



牛津町

火災警報器の設置が義務づけられた

消防法の改正に伴って、住宅用火災警報器の設置が、新築

佐賀中部広域連合の議会で、既存住宅は、平成二十三年五月三十一日まで五年間の経過措置が決められた。市広報や消防団を通じた広報活動

をを行います。要援護高齢者やひとり暮らし高齢者等に対し、日常生活用具を普及、貸与します。

デイサービスの入浴料五百円は高すぎる

生きがい通所デイサービスが、市内四か所で実施されています。地域交流の特徴。牛津の利用者は、アイルで入浴料五百円を払っている

四施設ではらつきがあるが、保育園、幼稚園、学校、地域の団体等との交流を行っている。入浴料は旧町のものを引き継いでおり、全体の検討が必要です。アイルの改修は、相当な費用



▲元気に遊ぶ子ども達

幼保一元化は子供の幸せの為に

幼稚園は文科科学省、保育園は厚生労働省の管轄であり、幼保一元化の理論構築がなされぬまま国の財政軽減の為、見切発車しているように思う。先ず子供の幸せを求め、健全な子供を作る為の環境づくりが第一と思うが。

が必要ですので、小城市全体のデイサービス事業をどういふふうにするか十分検討します。

この他に「新たな温泉表示制度を生かし、アイルに温泉館をつくる」ことについて質問しました。

幼稚園でも延長保育の要望も出ています。現代の幼児教育という観点から幼児教育の入った施設としてとらえていく必要があると思っております。幼保一元化に向けて小城市としてどうとらえていくかという事を今後の課題としていきたいと思っております。幼稚園・保育園の民営化の問題も合わせて検討して行きます。

この他に「新たな温泉表示制度を生かし、アイルに温泉館をつくる」ことについて質問しました。



▲アイルの天然温泉表示

高木 一敏 議員



小城町

市長はごみ収集車で現状把握を

問

分ければ資源、混ざればごみと言われて久しくなる。地球環境問題は私たちの生活か

答

(市長)

リサイクル率は九・五%、ごみ減量化、二酸化炭素の削減は、啓蒙、啓発が必要で担当課を含め目標設定が必要だと思う。

五十代職員を民間企業へ半年から一年間研修へ

問

行財政改革は、職員の意識改革と発想の転換であると思う、次のリーダーになる職員を民間会社に研修に出してはどうか、今は職員も多いと思う。时期的に忙しい時とそうでない職場があると思う。もともと市民に待たせる事のないような人事交流が出来ると思

答

(市長)

研修など長期的な人事交流も必要と考えを持っていくが、本庁方式に移行すれば考慮できると思う。各部各課の業務量を見ながら内部移動で対応出来る。時差出勤は、十分検討したい。

全職員による市民感謝祭を

問

イベントは、住民の意識高揚や知名度を上げたりいろんな効果がある。一年に一回全職員による市民感謝祭をしてはどうか。また、十八年度はどう考えているのか。

答

(市長)

消化的なイベント等は既に廃止した。イベントについては皆様より色々な意見をいただいている。実行委員会の活動で一先懸命取り組んできた元気あるイベントは必要と思っている。職員の動員には超勤を払う形になっている、極力職員の動員は少なくしたい。

三根 實 議員



小城町

借地は早急に買い取れ

問

現在、市が抱えている借地は、三日月町の体育館、牛津の町営住宅、砥川のグラウン

答

(市長)

過去の契約は尊重すべきと考えている、今

集落営農の先を目指せ

問

集落営農が平成十九年度から取り組まれようとしている、資材の一括購入は理解できないが財布を一つにする、例えば集落の区役でも、

答

(市長)

集落営農へは、泥だらけになって取り組む人もいれば、うろうろして一日過ごす人もいる。そういう人達が同じテーブルの上で面積割りとかで、お金を平等に分ける。これは生産力の衰退へとつながるのではないだろうか。今、市が取り組むべきは、集落営農の先にある、農業公社とか、法人化への取り組みを行うべきだ。



▶どう取り組む集落営農

東内 健吾 議員



牛津町

まずは牛津川の
泥土を除去せよ

問 国土交通省が提案
する「本流が危険
水域になった時、冠水対
策などの排水と都市型河

川

川の排水とは根本的に異なる。市街地住宅が三時間床上浸水するのでは被害が余りにも違う。相互の調整が必要だ。長崎本線下の堤防改修や天井川の修復、川幅の拡張も大事だ。

答 (市長)

排水機場はそれぞれ施設ごとに管理を委託しており、操作は緊急を要する場合が多く、必要に応じて操作を行っている

問 災害に備えは万全
か。

水防計画書は現在

るのが現状だ。市役所から指示し調整を図らねばならぬかと思っている。しゅんせつを含めた整備促進を各機関を通じて国に要望している。いずれにしても巨大な事業費がかかるので、六角川改修期成会の中で要望活動を継続したい。

答 (永渕総務部長)

台風十四号で自主避難は二百二世帯が避難された。台風十四号対策は芦刈の高潮対策と独居老人の事で民生委員の協力を得て「避難されるか。自分で来れるか」連絡した。

作成中だ。被害の恐れがある時は各庁舎に対策部を置く。



▲牛津町六間橋

問 市への苦情が多い。
処理状況は。

答 (市長)

合併後、六月まで寄せられた苦情は三十一件あり全て処理した。六月以降は十七件あった。道路水路、事務取扱い、補助金制度や専門知識の不足など職員への苦情もあったが、迅速に対応し住民サービスに努める。

井手 好邦 議員



三日月町

食育はどう進め
られるのか

問 日本人の乱れた食
生活や食文化を正
す事を目的とした食育基
本法が施行され、市民へ

の対応や、学校での栄養指導や食に関する授業、家庭での食事の指導は。

答 (市長)

食の大切さを忘れ、栄養の偏り、不規則な食事での肥満や生活習慣病の増加、過度のダイエットで食の安全が守られない。小城市食生活改善推進協議会で、食改善を年齢に応じた指導をされている。

答 (今村教育長)

学校では、栄養士と学級担任が中心となり栄養、カロリー、衛生、自己の健康管理、食事のマナー等を指導している。また栄養教諭の法的整備がなされ、免許が必要になり指導が期待される。

問 少子化対策は
日本の人口が、半
年で、三万一千人

減り二年前倒しでやって来た。我が市も合併後六カ月の推移が、四十五名の増となっているが、〇歳から十四歳までの子供の数が、三十七名の減となっている、この事をどう思われるのか。人口を増やす考えはあるのか。子育て支援は、どう進められているのか。子づくり支援の考えで、第三子、第四子、以上の子供に、祝金でも出されてはどうか。

答 (市長)

新たに小城市に住んでいた方も増やす必要もある。教育、生活環境の充実、安心・安全の確保で、住みたくなる魅力ある町づくりをしたい。延長保育、乳幼児の医療費の助成、検診や育児相談のサークル事業を実施している。安心して子供を産み育てる社会環境の整備をする事が先だと考えている。子供を産むには、不安や負担が伴

い又喜びや満足を感じる。第三子、第四子が生まれたからと、特典をやるという子供を産む事にはつながらないと思う。



▲少なくなる子供

平野 泰造 議員



芦刈町

有明海への浮遊物(ごみ)を流さないために

問 去る八月二十九日、沿岸四県合同の有明海クリーンアップ

作戦として一斉清掃が行われた。漁協組合員を中心とし、ボランティアの方と一緒に小城市役所職員の多くの方が参加された。ごみが沿岸に山積みされ、その量の多さを体感されたと思う。これは河川からと各市町の樋管から流れたものと考えられる。これは環境汚染であり、きれいな有明海にするためにはどうすればよいか。一方法として、各排水樋管排水機場の手前

でごみ取り用オイルフェンスを張り、海への流出防止はできないか。

答 (市長)

私もこのクリーンアップ作戦に参加して、ごみの量の多さ、いろんなごみが結局有明海に流れてきている状況を実感した。道路沿い等や河川敷にごみが捨てられている。環境問題として小城市全体で考えていく必要がある、清掃の日を定め

清掃活動をやっていきたい。ごみ取り用フェンスは効果的であるが、すべての排水樋管、排水機場にフェンスを設置するのは難しいと思うので各関係者、担当課と協議し必要箇所から設置していきたい。

答 (北島産業建設部長)

小さなよしず等がノリの品質を悪くすると聞いている。よその市町でフェンスの設置は効果

があるので続いていると思う。何か所か大きい川でオイルフェンスを張り、最後のごみ処理までやる計画を立てたい。



▲有明海のごみ除去作業

一ノ瀬次義 議員



牛津町

財政改革の中で職員の意識改革

問 予算の三分の一を占める人件費、六十億の予算を四万七千

人で割れば一人三十四万円位かかっている、人員削減はアウトソーシング、協働化と職員の意識的改革が大切ではないか。勤勉手当等義務的経費の見直しをして職員のやる気を出させる。

答 (市長)

現在、人材育成基盤本方針で市民から期待される行政のプロ育成の為、数多くの研修に派遣しています。政策形成能力を身につけて低コスト

問

税収、地方交付税が下っているのに、企業感覚で判断すると本社ビルを建てるのはどうか。分庁方式で人員を減らす工夫、行政サービスを低下させない仕組

本庁方式は冒険ではないか

で高レベルの行政サービスを展開します。意識改革のために勤勉手当の改正も必要、勤務評定制度の導入が急務。

答 (市長)

本庁は複数の部署に用事のある市民の皆さんが、一か所の庁舎で用事がすむ、職員間の業務連携も緊密となり業務効率も向上する。分庁は現在の耐震基準を満たしていない、本庁方式移行検討委員会では費用対効果を

下水道工事の方のすみ分けて財政削減を

問 財政負担の大きい下水道事業の公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽のすみ分けで、財政の削減を図れないか。今、現在供用開始の数、それに対する事業費はどのくらいかかって

見きわめながら検討をしていく。

答 (市長)

平成十六年度の世帯数は一万四千二百四十一世帯です。下水道の利出出来る世帯は二千六百十世帯で百五十一億円、合併浄化槽の補助金は二千五百五十七世帯に対して十億円です。今のままで事業の方法ですすめば予定残事業は四百四十二億円かかります。

飯盛 祐輔
議員



芦刈町

**公共事業改革を
考える**

問 小城中学校と三日
月小学校の改築工
事の入札が九月二十二
日、特定建設工事共同企

業体による条件付一般競
争入札で予定されている。
今回の入札で、注意し
改善に努めた点と、どう
いう条件を付けての一般
競争入札なのか。
また、地元業者の採用
につながる発注方式の新
たな取り組みのJCM
(日本型コンストラク
ションマネジメント)に
ついての認識があり、そ
れにに取り組む考えはある
のか。

答 (市長)
予定価格の公表及
び最低制限価格の設定等
を行い、競争性の確保、
談合の防止、良質な工事
の施工に努めている。
JCM方式は、確かに
透明性、競争性が高まっ
て事業費の削減につなが
るが、事務の複雑さ、複
雑さなどから、採用する
ことは前向きには考えて
いない。

問 JCM方式は、建
設業界にとっては

問 産んだ後の子育て
の環境作りとし

答 (市長)
現状では無理だ。



▲未来を担う子ども達

南里千枝子
議員



三日月町

**ボランティア活
動の活性化につ
いて**

問 来年四月より介護
施設でボランティ
ア活動をした六十五歳以

上の高齢者の方の介護保
険料を減額すると厚生勞
働省は打ち出した。小城
市のボランティア活動の
状況とそれに対する支援
と問題点を問う。

答 (市長)
ボランティアが
グループの総括的な事務局
は小城市社会福祉協議会
に設置し活動事業として
市から二百十八万二千円
を補助している。グルー
プでは地域活動ボラン
ティアとして施設訪問し

介助の手伝いやデイサー
ビス等のお年寄りのマッ
サージ。手話の指導、布
おもちゃやちぎり絵の製
作。個人では美容奉仕や
移送等の活動が行われて
いる。四町合同ボラン
ティア活動で市報などを
テープに録音し視聴覚障
害者向けに送られる朗読
ボランティアなどがある。

問 無報酬が基本です
けど活発な活動を
しているグループには有
償とまでいかなくても活

答 (市長)
活動状況、内容を
踏まえて、有償が適切な
のか無料でお願いすべき
か検討し、支え合いのま
ちづくりを構築するため
行政として精いっぱい協
力していきたい。

答 (市長)
平成十二年から梨
ノ木排水樋管新設をはじ
め千百mの護岸工事を二
十年完成の予定。平成十

答 (北島産業建設部長)
災害で崩れた場合
は部分的な改修をやって
いく計画であり下流改修
が済めば上流の早期完成
を県へ強く働きかけてい
く。コモ刈りは土木事務
所に申し入れ対応を図る。

**福所江川の改修
について**

問 三日月町を起点と
して牛津町・芦刈

問 三日月町を起点と
して牛津町・芦刈

問 危険か所の対応、コ
モ刈りはきれいに

七年度は新江口橋上流部
五十mの工事予定で全体
の六〇％が完成する。

江島佐知子 議員



小城町

学校改築は十分な説明を

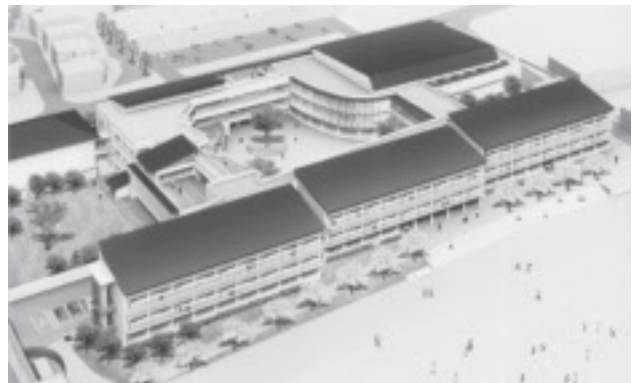
問 三月月小学校、小城中学校の改築事業が始まるが、工事中の安全面や騒音など心配の

声も大きい。保護者や地域住民など関係者に十分説明をし、教育的配慮をしながら進めていくべきでは。

答 (今村教育長)

保護者、地域への説明会を開催する。工事中も週に一回工程会議をする。教育委員会が数多く学校現場に足を運び、学校現場、保護者、地域との連携を図りながら進めていく。

▼小城中学校完成予想図



情報公開で市民協働の小城づくりを

問 小城市を方向づける審議会・委員会が開催されているが、

①どのような審議会が開かれているか。
②女性比率の現状と今後の取り組みは。また、若年層の参加が課題で

は。
③審議会の情報公開について、担当の部署を置き、一定のルールを定めて公開性にするべき。日程の事前告知など工夫が必要では。

答 (市長)

①六月一日現在で各方面で二十二の審議会が立ち上がっている。
②現在二六・九%。女性人材バンクを設置するなど、幅広い登用を目指

答 (永渕総務部長)

企画課、秘書広報課、総務課で検討している。審議会の設置と運営に関する指針を定めて、審議会のあり方を示していく必要があると感じている。

大坪 徳廣 議員



三日月町

幼児の時間外診察について

問 若い子育てのお母さんから怒りの電話があった。夕方、六時過ぎ二歳の男の子が三

八・七度の熱を出したのだからつけの医院に電話したところ、あいにく先生が留守。二軒目の病院は、出てもらえず、公立の病院に電話したところ「三歳以下は診きれません」、大きな病院では、「今、先生がおられますので」と断られました。一一九番に電話したら「救急車の要請以外は一一九番にかけないで下さい」と逆におこられたそうです。最終的に国

立病院で治療を受け事無きを得たそうです。この間、五つの医療機関で対応してもらえず、時間にして一時間以上経過しています。これが時間外幼児医療の小城北部地区の現状と思う。この医療関係は子育て支援の重要な一角を占めている。生活圏の小城市で対策を講ずるべきと考える。

答 (市長)

平成十二年より佐

賀市で開設された休日夜間子ども診療所で平日、夜間の診療が受けられます。そのほか夜間救急外来診療体制整備事業が二十二施設の医療関係が参加し、広域消防署で診療可能な医療機関を案内されている。町立病院に以前小児科があったが医師の退職後、現在小児科を休科している。今後、市民病院に対して小児科医師の確保を進めていく。



▲小城市市民病院の救急体制は

藤田 征己
議員



芦刈町

本庁方式の時期等について

問 先の議会において行政改革推進本部設置、市行政改革の大綱を定めるとある。本庁方

式の検討委員会、審議委員会の設置とその後。

答 (市長) 本庁方式検討委員は助役他九名で構成、規模、機能等を検討する体制に今入っている。移行する場合、新しく建てる

か、旧庁舎を利用するか、都市計画を含めて考えたい。同じ市民である以上均一的情報が得られるようにインフラ整備もCATVとどのように統一するか課題であり検討

中である。

問 分庁方式の弊害であるが、市民置き去りにされたサービス低下につながる行政改革であってはならない。

答 (市長) その周辺の特性に

市有地の遊休地活用について

問 市内四町で遊休地が大小十二か所、この遊休地を今後どのようににされるのか。処分出

来る所は処分、また有効活用をと思う。特に運動公園跡地等の活用を、元地権者の方も現在地の中で環境整備を強く要望されている。

答 (市長) 現在の芦刈ムツゴロウ公園の整備はどのようににされるのか。

応じ将来的魅力のある所に民間で利用、また誘致したい。山辺の道、ふれあい農園等ではまだまだ不十分。十八年度はしっかり計画が出来るように体制づくり等しながら、

予算も計上してやっていきたい。

問 野球関係者の要望の中で芦刈町ムツゴロウ公園の整備はどのようににされるのか。

答 (市長) 現在の芦刈ムツゴロウ公園グラウンドを一般の野球試合が出来るように県の協力を得ながらやっていく。

を

金原 修光
議員



小城町

温泉の館建設は

問 アイルの大浴場は、少々狭く露天風呂は二階にあり階段な

どで、事故が懸念され

る。合併で合併特例債の活用やアイル基金を利用し、市内の高齢者や障害者などに温泉療法として期待でき、医療費抑制になる「温泉の館」建設は。

また、現在旧町を走る福祉バスを、なぜアイルまで運行延長できないか。住民の声にこたえるべきだ。そして四か所の保健福祉施設の研修室、会議室など利用者が少ない。利用促進に努めるべきだ。

答 (市長) 温泉の利活用は同感だ。官による整備又民間による企業誘致など視野に入れ、全体総合計画の中で考えて行く。

現在バスは、アイルまで行く事はできるが、迎える時間などで、実施できない。市内四施設を活用して頂くよう、PRに努める。又、空き部屋の有効利用は、十分考えており、現場と協議する。



▲整備された防犯灯

通学路に防犯灯を

問 住民の防犯・安全の維持の役目を果たしている。防犯灯の維持管理は、行政がもっと積極的に政策を出すべきだ。現在四町での取り組みは異なっている。また犯罪抑制効果がある防犯灯を、主な通学路に市が設置し維持管理費まで、負担すべきでは。

答 (永淵総務部長) 旧町から引き継いだ防犯灯について、負担のあり方など見直しが必要だ。

答 (市長) 通学路は、不備な部分も指摘されている。教育委員会とも協議の上整備をやって行く。

どう利用する遊休地



▲どう利用する遊休地

樋渡 利光
議員



三日月町

市のアスベスト対策は

問 国内では、高度成長期に断熱材、耐火材として、建築物に盛んに使われ、今静かな時

限爆弾として大きな問題になっている。我が市でも早急の対策が必要であり、市民の不安をなくすのが我々の責務。使用状況の調査、また、どんな取り組みを行っているのか。

答

(市長) 学校を含む市内公共施設百四十六施設について、目視による調査。吹きつけ仕上げを施した十八施設はサンプリング

答

(今村教育長) 学校施設等におけるアスベスト使用実態調査及び文化施設を対象に設計業者等から聞き取り調査を行った。石綿含有

の有無を確認する施設は少ない。

問

昭和六十二年に、公立学校施設費国庫補助制度における大規模改造事業という事で、補助金対象工事はされたのか。それと市内の水道管に石綿管が使用されていると思いますが修理業者に対し安全意識、安全対策などの指導は。

答

(横田水道課長) 本年七月一日に石綿障害予防規則が施行されそれに則って対処している。

問

新たなアスベスト被害を防止する施策はあるのか。

答

(市長) 操業中止をさせる

答

(市長) 小城市には大きな道路整備の計画が国・県合わせて行われている。道路一本通るにしてもその地域が大きく変わります。展性が見込まれるので、そういう観点から私自身先頭に立って国県道の整備進捗について、どんどん申入れをして、一日も早い道路整備に向けて頑張る。

どのようにやるのか。

答

(市長) 亀裂からの崩落や土石流を防ぐには上部をカットする事も一つの方法論としてあるが、委員会の中で専門家の意見を聞きやっついていく。



小城町

北島 文孝
議員

松本山(小城町)の安全対策は

問 現在の松本山の現況は、どうなっているのか。

問

今年六月隣接する採石場の頂上付近から亀裂が発生、これにより崩落防止復旧用地として頂上及び頂上をこえた地域一万五千二百十

答 (市長) 採石場内は昨年の秋に小さな地すべりが起きたので防水シートの設置又二十四時間体制の監視、それに土石流防止のための防護壁の設置を行っている。

八mについて農業振興地域整備計画の変更申請がなされているが、安全対策委員会としてどのような対応をしたのか。



▲心配される松本山

問

問題は今回の計画では今後も膨大な岩石を計画的に取るという事であるが、業者とも協力して早期に決着はできないのか。

小城市を通る国・県道の整備は

問 小城市を通る国・県道の整備計画を

答

(橋本市民部長) 自己の健康管理は県の保健所、健康増進課等で対応していく。

中野 武 議員



牛津町

小城市内住所の番地に字名を記載せよ

問 小城市の誕生と同時に旧町の番地に大字を記載していた文字

は抹消され、字名部落名は記載するようにはなりませんでしたが、市内に非常事態が発生した場合警察や消防団への緊急出動要請は部落名で事故現場を知らせれば、警察や消防団員の対応もスムーズに出動が出来ると思いません。字名を番地の前に記入するよう改正を。

答 (市長)

私も新聞等のお悔やみ欄を見ますと、大字

で表示されていると、この部落の方なのかかわからず戸惑うところがありますが、この字名については小城市の合併協議会の第十二回協議会の協定項目の中で町名、字名の取扱いについて、行政区の取扱いについての協議がなされて、調整の具体的内容は「小城市小城市、小城市三日月町、小城市牛津町、小城市荻刈町、を小城市に改め、現行の大字名に町名を付

し、大字の表示を削除し、その区域の取扱いは従前のおりとする」という調整がなされたところであり、小城市におきましては、大字の表示の表記を削除しただけで、字の区域については合併前の従前どおりとなっております。行政区の区域名称につきましては従前どおりで小城市八十四、三日月町は四十一、牛津町が二十九、荻刈町で二十七の行政区となっており、私たちの住んでいる地域で、何で、行政区の名前ができたのか、また伝えていくとか、働きかけ、運動は必要と思っております。



▲信号機に表示されている字名

中島 隆浩 議員



芦刈町

三十人学級の実現を

問 子供にとって学級というものは、学校

で生活する最も強固な単位組織であって、学び合

い、磨き合う場であり、よいところ、悪いところをさらけだして友情を深める場です。又先生にとってもいろいろな子供を理解しながら、その子の成長に有効な指導方針を見出し、子供達の健全な成長を願って三十人学級の実現について、教育長は県の教育委員会と話し合いをされたか。

答

(今村教育長) きめ細かい指導をす

るためには、国、県の施策をにらみ合せながら、県が独自にやっているアクションプラン等を大いに活用してやって行きたい。小、中学校の子供達が生き生きと楽しく輝くような学習集団、学級づくりに頑張る行く決意で、教育長会等の機会あるたびに県に話をしております。



▲牛津中の総合学習

医療費減免制度の実現を

問 お金がなく医者に診てもらえず生命

の存続をも左右されかねない人々をなくすため、医療費減免制度は一層重要です。県下の民主団体等で作る「くらしを守る共同行動佐賀県実行委員会」が毎年行う政府交渉で、この問題を取り上げ、その席上「市町村の担当者への指導を強めて

行く」という答弁を得た。その後県でも七市の担当者会議で、県の担当者より「医療費減免制度は早急に整備すべきである」との見解が示され、佐賀市が要綱を作り対応しているが市の考えは？

答 (市長)

佐賀市が要綱を作り対応しているとのことなので、十分参考にしながら、新市で検討して行く。

堤 謙太 議員



小城町

「桜楽館」のゆめりあ、
「ひまわり」の各施設に
運び、多くの市民の方々
に天然温泉を活用して
もらっては。又市内を巡
回するバスの運行は。

余剰湯の活用

問 天然温泉津の里の湯「アイル」は毎日七十分もの余剰湯が出ているが活用として

答 (市長) 今後市民の集客力アップ、健康づくりを指導継続していきます。余剰湯を各施設に運び活用していただきたいが現時点では非常に困難であり今のところ計画はござ

いません。
市内を網羅した巡回バス、コミュニティバス導入について協議をして一日も早い導入を検討してまいります。



▲天然温泉のスタンド

地元企業の活性化・育成は

問 公共工事に対しては地元業者は、のどから手がでるほど欲しい。小城中学校、三日月小学校、その他の公共工事に対して地元企業の育成・活性化・優先度はどうのように考えているか。
答 (市長) 小城市の地域経済発展、雇用確保からも地

元業者でできる公共工事については地元業者に発注し、一定規模以上の工事で地元業者が入札できない工事は下請に地元業者を使う条件などを盛り込んで地元業者の受注機会を今後図っていきます。

答 (森永助役) 今後の入札については、市内に本支店を置く業者を活用するように、契約約款の中に要件を具備し契約をしていきたいと思っております。

香月千エミ 議員



三日月町

地元の食材を子どもたちに

問 食材の生産地の現状について、六月議会の答弁の数値は高すぎる。見直して施策を起

こすべき。

答 (松本教育次長) 学校給食係の調査では、給食センターの分で小城産野菜が八〜一〇%、肉が佐賀県産など。担当課、担当者、目標を明確にし、数値目標を掲げるべき。

答 (市長) まず現状の数字を正確に把握し、段階的に取り組みたい。仕組みづくりはぜひ必要である。

問 炊きたて御飯を各学校で食べられるよう、米飯給食の推進を。

答 (市長) 完全実施が理想だが、市内ではそれぞれ一定実施されていると思う。

問 食育の専門職としてだれが担い発展させていくか。学校給食を通して地域や子どもたち、何を提供したいか。

答 (今村教育長) 学校においては栄養士、栄養担当職員。栄

養教諭の配置ができた折にはその活用をする。



▲楽しい給食

実情に合った子育て支援を

問 市立幼稚園で預かり保育を実施してほしい(若刈幼稚園では実施済)。
答 (今村教育長) 時代の流れ、又、市長のマニフェストの方向性からして早急に取り組むべきものとして捉えている。

問 生活圏内の小城市で病後児保育室の

設置を。

答 (市長) 佐賀市に委託し実施しているが、地元の医療機関、医師会との十分な協議の中で不可能ではない。

問 乳幼児予防接種等、きめ細かい対応を求める。

答 (市長) まずは親、それを行政が支援するという各々の役割を全うすることが必要。

真子 輝雄 議員



小城町

天山のゴミが有明海に流れつく

まちづくりを語る

女性部長は、「有明海に異変が起きている。家庭

用雑排水が問題だ。また、発泡スチロールなど川のゴミが有明海に流れ着く。」と発言。

この話を聞いて有明海の環境保全をテーマにまちづくりをしていく大きなテーマだと感じた。

天山山頂にジュースの缶を捨てれば有明海に。有明海をテーマに「薫風新都」をめざせ。

（市長）小城市全域での有

明海沿岸の清掃に参加した。多くの皆さんが参加し、流れ着いたゴミを認識された。

例えば蛍を通じて川を清掃する。生態を勉強することも有明海再生に。

小城市総合計画の中で小城市にふさわしい、皆さんに印象に残る目標を定めていく。

（市長）小城市全域での有



▲この清流が有明海へ

旧役場庁舎の活用を求め

新佐賀市が誕生し、神埼郡、多久

市を含めた大佐賀市構想も考えられるが。

小城庁舎を建設すれば四十億円もの経費が。

また、旧四町の役場庁舎の活用は小區画に区切り、独立営業までの拠点に活用することも。

急いで本庁方式にするよりも支所方式がより望

ましいと考える。

（市長）分庁方式での問題もあって本庁方式が一番と判断している。

本庁方式移行後は支所機能の一部を公民館などへの移行を検討する。

庁舎の空きスペースはボランティアの拠点か民間の企業活動に支援できるように規制を緩めたい。

この他に下水道関係で質問しました。

加藤 邦子 議員



牛津町

観光立市、小城を

目指して

小城市の特産物や観光についての情報発信はどのようになっているのか、福岡天神の

イムズにある佐賀情報センターや各駅、観光案内所に届いていないようだ。百万人の観光客が集まる佐賀バルーンフェスタとの連携はどう対応されるのか。観光に必要な市の唄、四町の交流にも繋がり、市民が元気になる唄、いつ頃つくられるのか以上三点について質問します。

（市長）情報発信について

は、メディア発信が多く今月下旬、福岡の中央郵便局前で小城の物産展を行ったが、今後県の観光連盟とも連携しながら情報発信に努めていきたい。佐賀バルーン大会との連携はどのような方法論でやったら良いのかまだ未定です。市の唄は子供から大人まで世代を越えて愛唱されるイメージをソングを考えて早く対応していきたい。

公民館は地域コミュニティの拠点

合併して半年、まだ公民館の館長不在はなぜなのか、校長の

天下りとか職員ではなく、ユニークな地域づくりという事で公民館長の

老若男女を問わず一般公募はできないものか。牛津や芦刈町の図書室の日常開放はなぜできないのか。

（市長）公民館長は、職員を段階的に配置して行く。一般公募については、今後教育委員会と検討しています。

（今村教育長）牛津や芦刈は、三日月、小城の図書館と現在パソコンやコンピュータで接続しています。出来上がり次第総体的に改善を図って対応すべきだと思います。

（市長）



▲館長不在の公民館

工事請負業者 決まる

工事請負契約について、議会の承認を得るために下記の議案が、議会最終日（9月30日）に追加提案された。総ての議案は、賛成多数で可決され、承認を受けた。

浄化センター関連

三日月特定環境保全公共下水道事業

三日月浄化センター設置工事

鹿島建設株式会社九州支店と、条件付一般競争入札において、7億9,800万円で契約。

牛津公共下水道事業

牛津公共浄化センター設備工事

鹿島建設株式会社九州支店と、公募型指名競争入札において、2億8,455万円で契約。

三日月小学校

三日月小学校増改築事業三日月小学校建築工事

松尾・中島・丸福建設共同企業体、代表松尾建設株式会社佐賀支店と、条件付一般競争入札において、9億1,350万円で契約。

小城中学校

小城中学校改築事業小城中学校建築（Ⅰ期）工事

竹中・中島・上滝建設共同企業体、代表株式会社竹中工務店九州支店と、条件付一般競争入札において、15億2,775万円で契約。

小城中学校改築事業小城中学校建築（Ⅱ期）工事

間・中野・大洋建設共同企業体代表株式会社間組九州支店と、条件付一般競争入札において、10億5,000万円で契約。

小城中学校改築事業小城中学校電気工事

九電工・シグマ・今泉電機共同企業体、代表株式会社九電工佐賀営業所と、公募型指名競争入札において、2億4,360万円で契約。

小城中学校改築事業小城中学校設備工事

東熱・松尾・パイプライン建設共同企業体、代表東洋熱工業株式会社九州支店と、公募型指名競争入札において、3億6,960万円で契約。

橋本 信孝
議員



三日月町

新市の総合計画
策定を急げ

問 合併のメリットが見えないとの批判がある。新市のまちづくりの理想とする目標指針

である総合計画を早急に策定すべきである。

答

（市長）
総合計画

画審議会やまちづくり市民会議での審議や意見集約を行い、平成十八年度中の議会上げを目指したい。



▲シャッターが目立つ商店街

商工業・建設業・
農業の振興策は

問

市内の商工業は厳しい景況で、不況打開に陳情、研修等、懸命に努力中だ。建設業は公共工事が半減して苦しい経営状況で、リストラ、ワークシェアリングで対処している。地元企業育成を強く望む。農業は補助金見直しを軸に農政改革を進めているが、厳しい要件による大規模

農業の推進が、十九年より実施の予定で、農家の不安は大きい。

- ① 起業家事業推進を。
- ② 定住人口増加策を（団塊世代のUターン期待）
- ③ 佐賀大学との産学官連携の早期実現推進を。

答

（市長）

- ① 商店街の活性化対策で、ベンチャー企業支援事業（空き店舗対策）を推進したい。
- ② 団塊世代定年退職によるUターン者の人材活用

- ③ 佐賀大学との産学官連携で、小城市のブランドを確立し、小城市全体の経済の活性化、農業・水産業にも波及させたい。建設業は地元業者の受注機会の増大を図るため、地元業者で競争する機会を増やしたい。大規模工事下請に地元業者採用を入札要件に決めている。農業は農協及び生産組織との協力と、また産学官連携を密にしながら、農業の振興を図りたい。